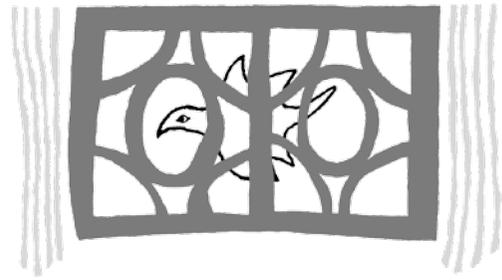


# 2015年度 センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校



## 筆記

### 1. 全体的な傾向

今年のセンター試験[筆記]でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がなされた。設問形式が若干変わった箇所はあるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、平均点は116.17点と、昨年度の118.87点より若干下がった。総語数は昨年度より200語ほど増加し、4,400語弱となった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、  
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力  
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力  
第2問C：ある発言に対し、適切な応答を考える能力  
第3問A：対話がスムーズに流れるよう、適切な発話を考える能力  
第3問C：発言の内容を要約する能力  
が例年通り求められている。

また読解力では、  
第3問B：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力  
第4問：グラフや表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力  
第5問：メールのやりとりを読み、主旨を正確に把握する能力  
第6問：論説文の流れを正確に追い、論の展開をつかみながら長文を読み取る能力  
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上で、的確な情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

### 2. 具体的内容分析

#### <第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A 発音 (6点：問数3)

基本的な単語の発音(母音が2問、子音が1問)を問う問題。カタカナにしたときのアクセントに惑わされやすい語(handle, handsome〔問1〕、hook〔問2〕、mission〔問3〕)も例年通り複数出題された。

#### B アクセント (8点：問数4)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が出題された。カタカナにしたときのアクセントに惑わされやすい語(success〔問1〕)も例年通り出題される等、個々の語の正確なアクセントが問われる。

#### <第2問>

昨年度Cの語句整序がBになり、Cが新傾向の出題となった。第2問全体での問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A 語彙、語法、文法 (20点：問数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。時制(〔問4〕〔問5〕〔問10〕)や使役動詞(〔問2〕)、分詞構文(〔問6〕)の問題は頻出である。イディオムやコロケーションの力を併せて要求する問題(know better than + O〔問1〕、in that S + V〔問3〕)も多い。基本的な動詞や疑問詞の使い分け方(hopeとwish〔問4〕、whatとhow〔問8〕)、関係詞、不可算名詞や同義語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

#### B 語句整序 (12点：問数3、マーク数6)

各文の中に含まれる語彙・語法を使い、意味の通る文にする問題。動詞の用法(charge + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>〔問2〕)は必出である。文法(仮定法過去完了〔問1〕や付

帯状況等)も併せて確認しておきたい。

#### C 応答文完成 (12点：問数3)

与えられた語句を組み合わせ、対話に即した文にする問題。文法や語法の知識だけでなく、No way!〔問3〕等の発言から、対話の流れも考え合わせる。  
<第3問>

昨年度第2問Bの対話文完成がAになった。問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A 対話文完成 (8点：問数2)

対話文を完成させる問題。空欄の前後の対比(a new jacketとmy own jacket〔問1〕)を読み取り、空欄で何を言っているのかを次のせりふから導く(Now I know ~からIt turned out ~を〔問2〕)。代名詞(That〔問1〕選択肢)の指す内容を文脈から読み取る力も求められる。会話でよく使われる表現にも慣れておきたい。

#### B 不要文選択 (15点：問数3)

パラグラフのまとまりをよくするために取り除いた方がよい文を1つ選ぶ問題。まず、第1文からキーワードを読み取る(stamp collecting〔問1〕、salt〔問2〕、TV shows〔問3〕)。不要な文にもキーワードは含まれているため、前後の文との関連性に気をつけ、漫然と読み流さないようにしなければならない。

#### C 発言の意図の要約 (18点：問数3)

2人の発話の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の表現で言い換える(a set of unusual eventsをstrange happenings around usで〔空欄32〕)ことが多い。また、Lilyの最初のせりふ第6文のwe humans also do the sameのdoは何を指すかも理解し、発言の主旨をまとめる柔軟な読解力が必要とされる。

#### <第4問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A グラフ読み取り問題 (20点：問数4)

グラフを参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、情報の内容を言い換えた表現を読みこなす。第2段落の第4文の,with teachers slightly more likely to see high riskで、Very riskyの棒グラフから(B)が教師、(C)が親であると読み取る〔問1〕。グラフはあくまでも補助的なものであり、基本は説明文を正確に読めるか、が問われる。最終段落に続く話題を考えさせる問題〔問4〕も昨年度に引き続き出題された。

#### B ウェブサイト読み取り問題 (15点：問数3)

ウェブサイトから適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所(複数の情報を合わせる場合もある)を的確につかむことが大切である。

#### <第5問> (30点：問数5)

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。イラストを選ぶ問題はなくなった。

2人のメールから、父親の心配と先生のアドバイスを読み取る。Mr. Okamotoのメール第1段落第3文のshe seems to get along well with other students in the classと第4段落第1文のI ... feel confident she will establish friendships sooner or later on her own. が、選択肢のAnna will make friends without any special help.とまとめられている〔問4〕ことを読み取る。それぞれのメールから、ある事項に対する意見を丁寧に拾い上げていく。

#### <第6問> (36点：問数6、マーク数9)

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

各段落の内容を正確に読み取り(設問A)、段落の要旨を順に並べる設問(設問B)の2本立て。各段落のポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読解力が求められる。また、ここでも、正解の選択肢は本文で使われていない単語や表現で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

### 3. 昨年度から変化のあった点

- ①昨年度の第2問Cの語句整序が第2問Bとなった。
- ②第2問Cの応答文完成が新たな問題であった。
- ③昨年度の第2問Bの対話文完成が第3問Aとなり、昨年度の3問から2問に減った。
- ④昨年度第3問Aの意味類推は第5問、第6問の長文読解の中で出題され、配点が各6点に増えた(昨年度は各4点)。
- ⑤第5問でイラストを選ぶ問題がなくなった。

### 4. 新しい傾向が見られる点

- ①第2問Cの応答文完成が新たに出題された。
- ②昨年度第3問Aで出題された意味類推は、第5問、第6問の長文読解の中で出題され、配点が各2点

増えた。

## 5. 日頃の学習で大切なこと

### ①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。また、カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

### ②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しやすい組み合わせなら、より効率的に覚えらる。

### ③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つひとつの音に注意を払い、そして文全体の内容を理解しながら読み進む。何回も繰り返して読み込んでいけば、なによりも英語の音に

対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

### ④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

センター試験では語彙に関する知識が求められる。とはいえ、意味のわからない語は必ず出てくるものと覚悟しよう。すべての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会うとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると、類推力や想像力が身につかなくなってしまう。

### ⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをパラグラフ中心に考える。接続語を手掛かりに、パラグラフがどのように構成されているか全体の論調を捉え、各パラグラフのキーセンテンスを探し、要旨をまとめる。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

### ⑥多読を心がける

80分で4,000語を超える分量の英語を読みこなすには、普段から500～1,000語の文章をある程度のスピードで読むことを習慣とすることが大切である。授業では精読を中心に行っているが、時には様々な分野、テーマ、形式の、比較的易しい文章に多く触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

## リスニング

### 1. 全体的な傾向

過去5年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点いずれも昨年度と同じである。読まれる総語数(1,100語強)は昨年度とほぼ同じ。読み上げ速度は昨年度とほぼ同じで自然な感じであるが、音声面でのリダクションもあり、聞き取りにくい箇所もあったと思われる。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題で、平均点は昨年度よりも上がり(今年度35.39点、昨年度33.16点、一昨年度31.45点)、リスニング試験導入の2006年度以来2番目に高いものとなった。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起

きうる身近な話題がテーマになっている。

### 2. 具体的内容分析

#### <第1問>対話ビジュアル(12点:問数6)

#### ❖男女2人の対話を聞き、適切なイラスト、単語、数字を選択する

#### ❖各対話の総語数: 30語弱

イラストを選ぶ問題、数値を聞き取って計算をする問題は昨年度と同じ各2問である。対話がいつ行われているのかを問う問題は今年度なかった。最初のせりふで状況を大まかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語(句)や数字がそのまま答えになるとは限らず、簡単な計算をする

設問もある。最初のせりふで状況をつかみ、2番目～4番目のせりふのキーワードを聞き逃さないようにする。数字を聞き取る設問が4つ出題され(〔問2〕〔問3〕〔問4〕〔問5〕)、そのうち〔問3〕〔問4〕は普段と現在を比較するものであった。数字や単位(年、月、%等)を含め、せりふの細部まで集中して聞く姿勢が問われる。on time, be delayed, an hour and a half, be supposed to〔問5〕、be in one's way〔問6〕等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

#### <第2問>対話応答補充(14点:問数7)

#### ❖対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

#### ❖各対話の語数: 20語弱～30語強

#### 問11

Man : Ms. Williams, are we going to discuss our projects today?

Woman : Yes. So please make groups of five, everyone.

Man : But, um... there are 31 students here today.

#### 選択肢

- ① OK, then let's have group projects.
- ② OK, then let's make it 30 students.
- ③ OK, then let's make one group of six. (正解)
- ④ OK, then let's start the discussion.

相手の述べたことへの自然な反応を考える。疑問文で終わる対話の設問は1つのみだった(昨年度は3)。最初の2つのせりふから会話の場面や状況を想像できるようにしたい。ここでも、right away(選択肢)〔問7〕、What about you?(読み上げ文)〔問8〕、Why don't you～?(選択肢)〔問9〕、straight ahead(選択肢)〔問12〕、check it out(読み上げ文)〔問13〕等、日常会話でよく使われるフレーズが頻出する。

#### <第3問A>対話内容Q&A(6点:問数3)

#### ❖対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

#### ❖各対話の総語数: 50語前後

#### 問15

Woman : This coffee is too strong!

Man : Really?

Woman : Yeah, is the machine broken?

Man : No, it seems fine.

Woman : What could the problem be?

Man : Hmm... I don't know. I did what you told me to do.

Woman : What exactly did you do?

Man : I put 40 grams of coffee for each cup.

Woman : No, I said 14!

質問: What did the man do wrong?

#### 選択肢

- ① He broke the coffee machine.
- ② He chose the wrong beans.
- ③ He misunderstood the directions. (正解)
- ④ He used 14 grams for each cup.

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数が9に増えたものが出題された(昨年度は8まで)。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。話者が相手に同意しているのかそうでないのかといった話の流れをつかむ力とともに、選択肢のreturnがせりふのtake～backの言い換えである〔問14〕ことを理解し、男性が14を40と聞き間違えてしまったことをHe misunderstood the directions.と置き換えている〔問15〕、といった内容を正確に把握する力も求められる。

#### <第3問B>対話ビジュアル(6点:問数3)

#### ❖対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

#### ❖対話の総語数: 約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。2つのものを比較して簡単な計算をしたり、指示代名詞が何を指すのかを考える。また、情報は上から順に出てくるとは限らない(解答欄⑧が一番最後に埋まる)ので注意が必要。

#### <第4問A>

#### Short Passage 内容Q&A(6点:問数3)

#### ❖Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

#### ❖各Passageの総語数: 100語弱

#### 問22

Palau is a country in the Pacific. It became an independent republic on October 1, 1994. Palau's flag is similar to Japan's because it features a

single circle. However, the circle is yellow, and the background is blue. Blue is used to represent the ocean, which the nation depends on for food. Unlike the Japanese flag, the circle on Palau's flag is a little off-center. Instead of the sun, as on the Japanese flag, the circle represents the moon, which is traditionally thought to be important in the life cycle and customs of the people.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたり、まとめることがある（上記下線部をthe shapeに〔問22〕）場合も多いので、要点をつかむ力も求められる。

#### <第4問B> 説明文内容Q&A（6点：問数3）

❖ 説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖ 説明文の語数：約200語

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況を想定できるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。全体の内容を総合的に理解する力と、求められた情報を正確に取り出す力が必要とされる。ここでも、選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられていることがある。話の流れが変わったり固有名詞も出てくる場合もあるので、メモを取りながら、質問されるポイントの個所を絞って聞くことも大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約40秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。

### 3. 対応のポイント

#### ① 状況・場面を想像し、話の流れをつかむ

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を予測してから英語を聞く。複数の方法が提示され、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。方向性を予測した上で最後まで丁寧に流れを確認したい。

#### ② 英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、〔問5〕、〔問14〕、〔問15〕のような英語特有のフレーズは聞けるだけでなく、意味が自然に頭に入るまで聞き慣れておくようにしておきたい。

#### ③ 言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は筆記試験同様に要求される。聞き取る英語の表現がそのまま選択肢にあるとは限らず、別の形で言い換えてある場合も多くある。正答の鍵となる情報をきちんと整理する力もつけておきたい。

#### ④ 全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解することを求める必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。リスニングでは、聞き取れなかった箇所を悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すれば良い」と思うくらいの余裕が欲しい。

### 4. 日頃の学習で大切なこと

#### ① 英語の音を聞き、その音を口にする活動を習慣にする

「継続は力なり」と言われるように、1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておいた上で、その音を真似して口に出す活動を続ける。次第に英文の流れが、意味を伴った内容となって頭に残ってくるようになるであろう。

#### ② 聞いた内容を論理的に組み立て、考える力を育てる

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。教科書等の、ある程度分量がある文章の内容を理解した上で英語を聞いて論の展開をつかむ。そして音読、Qs & As, dictation等の基本練習を日頃から行い、論理的思考力も養っておきたい。

#### ③ 自分のことばで実際に表現する機会を増やす

コミュニケーションを成立させるためには、お互いの考えをきちんと伝え合うことが必要である。相手の伝えたいことを理解し、それに対して自分の意見や考えを、決まりきったパターンではなく、自分のことばで実際に表現する活動を増やしたい。